

避難生活つづける

浜通り農産物供給センター代表理事 三浦 広志(51)

私は、相馬市で3・11 重税反対集会に参加し、デモ行進に出ようかという時に地震にあいました。地面は液状化で一面水浸し、道路は地割れして余震のたびにその割れ目が伸び縮みしてしましました。デモは急きょとりやめとなり、津波は予想していたより大きかったです。急ぎで申告を済ませ、南相馬市の自宅を過ぎました。帰路は地割れしている部分も多く、山越えをして避難所にとり着きました。

農機具倉庫・鶏舎流され、田畑は水没、生活の糧失う

「これも危ない」

小学校に避難して2日目、福島第一原発の事故の情報が避難所に流れてきて、原発から17キロほどの避難所に移りました。ところがその日のうちに「原発が爆発してしまう。圧力を下げるため

にガス抜きをした」という情報を聞き、さらに原発から25キロほど離れた避難所に移動して一夜を明かしました。翌日、「これも危ない」ということで、さらに移動して相馬市の避難所に避難しました。

そこは廃校だったのですが、毛布を敷いてもとても寒く、なかには一人で歩けないのにトイレの

さいわい家族は全員無事でしたが、60戸の集落のうち、残ったのはわが家を合せて3戸のみ。海から2キロ以内まで津



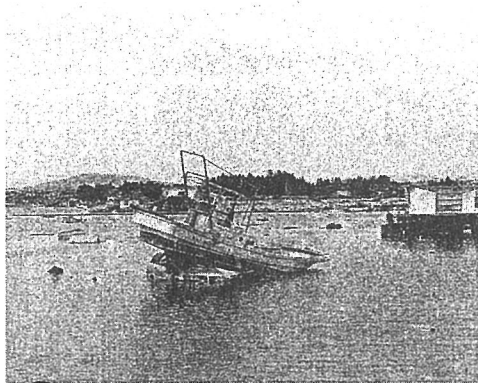
孤立する南相馬市へ満載ワゴン車

市長 支援物資届かない 今後とも支援続ける 神奈川農産物供給センター 福島県農産物供給センターは今春節夫さんらと、ワゴン車2台に支援物資を満載して、地震・津波・原発災害で孤立す

相馬に必ず戻って農民連事務所・復興活動の拠点づくりを奔走したい

が自宅に戻ることもできなくなっています。避難者約7万人も激増し、周囲の避難所は人であふれかえり、入りきれなくて県外に避難せざるを得ない人も増えています。

人命より原発延命優先の 東京電力・政府に強い怒り



津波で海水の湖と化した水田地帯 (宮城県東松島市)

地元には原発や原発関連企業で働く人も多く、避難所では炉心のメルトダウンなど、もっと深刻な事態を不安視する声や、人命より原発設備の延命を優先する東京電力

と政府への強い怒りの声でいっぱいでした。原発事故は、地震や津波などの「天災」ではなく、「人災」です。「原発の地震・津波対策が弱い」という声があ

放射能の飛散で、もう戻れない可能性もあります。自然災害への補償もそうですが、原発事故被害への賠償がしっかりとされないこと、この先とても生活していけません。国にはありとあらゆる施策を尽くして、被災地の、あるいは転出先での農業生産の再開を支援してもらいたい。

がっていたのに、安全神話を繰り返すだけで対策を強化しなかった東京電力にも、国策として原発建設を強行してきた政府にも、「怒り」という言葉では納まらない、強い憤りを覚えます。

浜通りの農民連も相馬市で事務所を再開する準備を進めています。いま、私と妻は4月から東京で就職することになっていて長女のアパートで、両親と長男と犬2匹は伊達市のいとこ宅で、避難生活を送っています。ガソリンが手に入らぬ、相馬に戻り、復興活動の拠点作りに奔走しようと思っています。全国の仲間のご支援、ご協力をよろしくお願ひします。

息子が再び農業に携われるような施策を

宮城県名取市 桜井茂明さん (野菜農家)

仙台空港のすぐ近くでカフェやホウレンソウなどを栽培しています。ダイコンは収穫間近の状態でした。

家族が無事だったのは何よりでした。しかし家とハウスは津波ですべて流されてしまいました。畑は海水に沈み、今は磯辺のようになっています。

300人の集落のなかで、いまだ4分の1ほどの行方がわかりません。もともと農業を営むのは困難でしょう。先が見えず、何から手をつけたいのかわかりません。これから現実を踏まえて生きていかなければなりません。

地盤がゆるみ、ほとんどの家が倒壊し、ほとんどの家が孤立しています。

直接30センチの木もすべてなぎ倒され、砂漠に水がたまっていてような状態です。

今は仙台市内のアパートで避難生活をしていますが、インスタント食品でなく、新鮮な野菜や果物を口にすると、農業は最高の職業だと改めて思っています。

できることなら、30代の息子に再び農業をやらせてあげたい。希望する人には、農業に再び携われるような施策を行政に強くお願いしたい。

原発人災が被災地への救援を妨げ、被害をさらに深刻にしている。首都圏の水道水から基準を超える放射性ヨウ素が検出され、幼子を持つ母親を震え上がらせている。農家は生乳を捨て、一部の野菜は出荷停止に追い込まれている。終わりが見えないなか、これほどの苦行があるのか、原発復旧に向けて懸命の作業が続いているが、下請労働者が被曝し、消防隊員の妻は日本救世主になれ、涙を振り払って夫の背中を押す。こうした人たちがこの難局を支えているのだ。菅首相は「よりのよ日本を作り上げようではないか」と呼びかけた。「わがが震災2日後に、頭のどこをたたけばこういう言葉が出てくるのか。誰か励まされると思っているのだ」と脚本家の内館牧子さんが怒っている。ある大臣は消防隊員に向かって「処分するぞ」と恫喝した。なんてやつらだ。▼農民連の会員から「被災農家を受け入れた被災地」という申し出が相次いでいる。ここにも連帯の輪が広がっている。東北の桜も春を待っている。(あ)